

春風駘蕩 ― 絵と人のあいだ ―

GOJI TANIGUCHI

A Gentle Spirit: Between Art and People

谷口午二《バレリーナ》制作年不詳、油彩・キャンバス、個人蔵

小企画展

谷口午二展

2026. 11.19 thu ～ 2027. 1.17 sun

あなたとわくわく
マグマシティ
鹿児島市

鹿児島市立美術館
KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

〒892-0853 鹿児島市城山町 4-36　TEL099-224-3400
https://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/

開館時間　9:30 ～ 18:00（入館は 17:30 まで）
休 館 日　月曜日（祝日の場合は翌平日）、12/28 ～ 1/1
観 覧 料　市民料金：一般 450 円　高大生 300 円　小中生 220 円
　　市外料金：一般 600 円　高大生 400 円　小中生 300 円
※所蔵品展と共通、年間パスポートでもご覧いただけます。
※毎月第３日曜日は小中学生の常設展（所蔵品展・小企画展）観覧料が無料です。
※市民料金の適用には住所確認ができる公的機関が発行する証明書等の提示が必要です。

リサイクル適性の表示：紙へのリサイクル可

小企画展

谷口午二展

春風駘蕩（しゅんぷうたいとう）― 絵と人のあいだ ―

2026. 11.19 thu ～ 2027. 1.17 sun

谷口午二（ごじ）（1894 ～ 1987）は、明治後期に鹿児島市に生まれた洋画家です。東京美術学校（現在の東京藝術大学の前身）の西洋画科で黒田清輝ら同郷の教授陣に学び、卒業後は美術教育に携わるとともに「南国美術展」（現在の南日本美術展）の創設や鹿児島初の洋画グループ「金羊会」の結成など、郷里・鹿児島の文化振興に尽くしました。戦後は特に1954年に開館した当館の初代館長を11年務め、展覧会や美術教室の開催などに精力的に取り組み、話し好きで庶民的な人柄から「午二さあ」の愛称で名物館長として親しまれました。博識でユーモアに富む午二はその後も晩年まで県美術界のご意見番として唯一無二の存在感を放ち、1962年に南日本文化賞、70年に鹿児島県民表彰、勲五等双光旭日章を受けています。

本展は、午二の名の由来が午年の午の刻に生まれたこと（ウマ二つでゴジ）であるのにちなんで、午年の2026年に開催するものです。午二は長く東京で暮らし生涯を絵に捧げながら自身の中央画壇進出には無欲で、文化人として地元の名士の顔を持つ反面、画家としては黒子に徹し後進の育成に情熱を捧げた一面を持ちます。しかしながら、黒田由来の外光派の温かな色調と確かなデッサン力に裏打ちされたその作品は、丁寧な写実のなかにみずみずしい生命感を宿すものばかりです。このたび、ご遺族の厚意にあずかり個人所蔵の油彩画を中心に一堂にご紹介いたします。温かく洒脱な人柄を偲ばせる作品の数々をお楽しみください。 ※春風駘蕩は、春風が穏やかに吹いてのどかな様子を表し、転じて人柄が温厚で穏やかなことを意味します。

●ギャラリートーク（学芸員による作品解説）／11/28、12/26、1/9　各土曜日　14時から30分程度
●同時開催の展覧会／秋の所蔵品展　特集：在りし日を想う～所蔵作家・作品と写真資料　9/15（火）～ 11/29（日）
（小企画展と共通料金）　冬の所蔵品展　特集：谷口午二をめぐる鹿児島の作家たち　12/1（火）～ 2/14（日）

アクセス案内

・カゴシマシティビューバス「西郷銅像前」下車徒歩1分
・市電「朝日通」/バス「金生町」下車徒歩5分
・JR鹿児島中央駅より車で10分

駐車場案内

※駐車可能台数に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

■美術館駐車場6台（美術館正面向かって右側の道路沿い）
■共用駐車場（メルヘン館隣、9:30～18:00、バスは要予約）
普通車31台、大型バス3台（マイクロバス7台）
※駐車券を美術館1F総合案内へお持ちください。
■周辺駐車場
・鹿児島市役所みなと大通り別館駐車場
（無料、平日8:30～19:00、土日祝9:00～18:00）
※駐車券を美術館1F総合案内へお持ちください。
・美術館周辺コインパーキング（有料）
・セラ602駐車場（有料）
・近隣施設駐車場（無料）
黎明館、かごしま近代文学館・メルヘン館
※美術館駐車場が満車の場合に限ります。長時間の駐車はお控えください。
※各施設の都合によりご利用いただけない場合があります。



鹿児島市立美術館
KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

〒892-0853 鹿児島市城山町4-36　TEL099-224-3400
https://www.city.kagoshima.lg.jp/artmuseum/


①


④


②


⑤


③


⑥

掲載作品（作者はすべて谷口午二）
①《真鶴港船だまり》制作年不詳、油彩・板、個人蔵　②《百合》1914年、油彩・キャンバス、個人蔵　③《ダリア》1930年、鉛筆、水彩・紙、個人蔵
④《あさがお》1936年、油彩・キャンバス、鹿児島市立美術館蔵　⑤《兜（かぶと）》1913年、水彩・紙、個人蔵　⑥《重富にて》1926年、油彩・キャンバス、個人蔵